

広田小学校図工室にエアコン

本格的増築でプレハブ教室の解消を

えびす智彦議員は3月定例議会の質問で、広田小学校の図工室がプレハブの仮教室のままである問題をとりあげ、35人学級が順次実施されていくことを考えた場合、本格的な増築を準備すべきであると迫りました。

増築について市側は、児童数の状況を見ているなどと、児童数が減少するまで待つような消極的な答弁しかしていませんでしたが、エアコンについては、今年度予算に計上されています。今後

また、坂本浩子前市議が昨年の議会でのこの問題を取り上げた中で、プレハブ図工室は、夏は蒸し風呂のように暑く、冬は手がかじかむほど冷え込むことから、本格的増築までにも、せめてエアコンを設置することを求めています。

も日本共産党議員団は、教育環境の整備のために頑張ります。

広田の学童保育

定数30名に44名が在籍

早期に教室の増設を

広田地区の学童保育は平成14年6月から老人福祉センターで実施されており、共働きの若いお父さん、お母さんから歓迎されています。当初少なかった入所児童数がその後だんだん増加し、現在、定員30名のところに44名を預かっており、すし詰めの状態が続いています。

市当局も老人福祉センターのほかにもう1箇所、広田小学校周辺で設置場所を探していますが、今のところ適当な場所が見つかっていないのが現状です。

また、4月から防災センターを利用して、倭文地区でも学童保育が始まっています。

3月議会での共産党の態度

71案件（議案67、承認2、同意1、請願1）のうち賛成61、反対10

反対した議案

放置自転車条例、職員給与引き下げ条例、国民保護法関連2議案、敬老祝金引き下げ条例、介護保険条例、政務調査費条例、一般会計、介護保険会計、水道会計

みどり民報

2006年4月30日 97

日本共産党 緑支部
市政のご相談ご意見は

えびす智彦

電話 36-4474

坂本浩子まで

電話・ファックス 45-0250 ファックス 45-0291

ケーブルテレビ

旧緑・南淡地域へのケーブルテレビの拡張について、各地区で説明会が行われましたが、その中で、三原・西淡で無料だったものが、緑・南淡ではどうして21、000円もかかるのか、との声が出ていました。また、緑・南淡の区長会からは、負担軽減

市側の答弁やや軟化

についての要望も出されています。

この状況を踏まえて、えびす智彦議員は、負担軽減措置を考えるべきではないかと質問しました

併になつてきました。ケーブルテレビは多くの方が加入し

てこそ効果が上がるものです。そのためには市民

の負担をできるだけ少なくする必要があります。これから、負担軽減のため全力をつくします。

加入負担金

80歳以上の方への敬老祝金 年間5000円を3000円に減額

南あわじ市3月定例議会で80歳以上の高齢者に年1回支給されている5,000円の敬老祝金が3,000円に減額されることが賛成14、反対11、棄権(退席)2で決定されました。

戦中・戦後を生き抜いた国づくりの
功労者になんという冷たい仕打ち

「ご存知のように80歳以上の高齢者は、あの太平洋戦争で多くの方々が命を奪われ、生き残った方も、男性は兵隊にとられ、極寒の地で、あるいは熱帯のジャングルで武器弾薬も食料もつき、かろうじて生還できた人たちです。女性もまた働き盛りの男性を軍隊にとられた中で、産業を支え家庭を守り、厳しい生活に耐えてきました。「滅私奉公」「欲しがりません、勝つまでは」「進め1億火の玉だ」などと、子どもから大人まで戦争に駆り立てられたのです。

そして戦後、荒れ果てた日本の復興のために働いて働いて働き続けた人たちです。世界第2の経済大国を作り上げた最大の功労者でもあるのです。その方々への年間たった5,000円の敬老祝金を3,000円に引き下げるとは、なんと冷たい仕打ちでしょうか。

もって900万円あれば減らさずにすむ

南あわじ市の敬老祝金の対象者は約4,500人です。すから2,000円を掛けると900万円です。市の一般会計予算262億円のわずか0.034%に過ぎません。市は財政の厳しさを強調していますが、それなら、もっと財源を作る努力をすべきです。

市発注の公共工事の落札率が高すぎる

市が昨年11月までに発注した公共工事は総額81億円にもなりますが、その落札率は95.7%です。松帆小、榎列小の工事は99%以上、丸山浄化センターの土木・建築分は97.5%です。公正な競争原理が働くよう入札のあり方を改善すれば、900万円どころか億のつく予算が節約できます。

高齢者からの増税分4,600万円
が市に入るのに

小泉自公政府の「改革」によって老年者控除の廃止、老年者非課税措置の見直し、公的年金控除の見直し、定率減税の半減などの増税が行われたため、高齢者から4,600万円もの税金が市に入ってきます。その1部を回すだけで5,000円の敬老祝金を続けることは可能です。

一度決めたことでも変更できる

合併協定で、各町でまちまちだった敬老祝金を80歳以上5,000円に統一すると決めて、たった1年で2,000円も減額するとは、いったい合併協定とは何だったのでしょうか。議会の採決も、かろうじて過半数ぎりぎりと言いきわどいものです。

市はこれから何度も補正予算を提案しますから、その中で900万円を追加計上すればすむことです。

国の悪政から市民を守るのが

自治体の役目

小泉自公政府は「改革」の名によって国民に次々に負担を押し付けてきています。それに歩調をあわせて、市民負担を増やしたり、サービスを切り下げたりするだけなら、何のための自治体でしょうか。

こんな時、市民を守る立場にたつてこそ地方自治体の存在意義があるのです。えびす智彦はみなさんの声を胸に刻み、少しでも住みよい南あわじ市にするために全力を尽くします。どうぞ率直なご意見をお聞かせください。